

令和7年度 就職先アンケート

就職先アンケートは当校の6つのディプロマポリシーに基づき構成し16の質問を実施した。就職後、約半年経過した令和7年10月に実施し、評価者は各病棟の師長またはそれに準じる方へ依頼をした。

評価尺度は「満足：4」、「ほぼ満足：3」、「やや不満：2」、「不満：1」の4段階。

【結果】

就職先施設（病院5、クリニック2）の7施設に計依頼し、6施設より回答が得られた。

各項目に対する結果は以下の表の通りである。 ↑↓は前年比を表す。

		4 人数 (%)	3 人数 (%)	2 人数 (%)	1 人数 (%)	設問の 平均値
Dp1.地域医療に 貢献する姿勢(態 度)	仕事に主体的に取り組む姿勢	20.7 ↑	62.1 ↑	17.2 ↓	0.0 ↓	3.0
	仕事を継続しようとする姿勢	31.0 ↑	62.1 ↓	6.9 ↑	0.0 ↓	3.2
	周りに助けを求める姿勢	27.6 ↑	62.1 ↑	10.3 ↓	0.0 ↓	3.2
Dp2.専門的知識・ 技術を活用する力 (知識・技術)	安全に実践するための基本的知識・技術	6.9 ↑	51.7 ↓	37.9 ↑	3.4 ↓	2.6
	自己の能力を評価し成長しようとする力	20.7 ↑	48.3 ↓	27.6 ↑	3.4 ↓	2.9
	個別な実際の場面で実践する力	6.9 ↑	62.1 ↑	27.6 ↓	3.4 ↓	2.7
Dp3.情報収集・分 析力(知識・技術)	課題の把握と問題解決能力	10.3 ↑	41.4 ↑	44.8 ↓	3.4 ↓	2.6
	状況判断能力	6.9 ↓	51.7 ↑	37.9 ↓	3.4 ↓	2.6
Dp4. 専門職業人 として運用する能 力(知識・技術)	相手を尊重する誠実な対応	48.3 ↑	31.0 ↓	20.7 ↑	0.0	3.3
	一般常識(マナー)	41.4 ↑	31.0 ↓	24.1 ↑	3.4 ↑	3.1
	チームとして連絡・報告・相談	24.1 ↑	51.7 ↓	24.1 ↑	0.0 ↓	3.0
	所属する部署での規律の遵守・倫理観	34.5 ↑	51.7 ↓	10.3 ↓	3.4 ↑	3.2
Dp5. コミュニケ ーション力(知識・ 姿勢)	適切なインフォームドコンセントの実践	24.1 ↑	44.8 ↑	27.6 ↓	3.4 ↓	2.9
	対象のニーズを引き出す力	13.8 ↑	51.7 ↑	34.5 ↓	0.0 ↓	2.8
	他者の意見を理解し、自分の意見を表現する力	13.8 ↑	51.7 ↑	34.5 ↓	0.0 ↓	2.8
Dp6. 自己の看護 観が持てる	職場で自分の役割・価値を見出し努力する姿勢	10.3 ↑	65.5 ↑	24.1 ↓	0.0 ↓	2.9

【考察と在校時の関わりについて】

Dp1.地域医療に貢献する姿勢(態度)

全ての項目で、プラス評価が80%を超えている。主な就職先は修学資金貸与施設であり、実習先でもあることから、「学生にとって知っている環境に多くの同期がいる。さらには卒業生も多い」ことから先輩看護師との距離も近くなりやすく、職場不適応を起こしにくい環境であると考えられる。

Dp2.専門的知識・技術を活用する力(知識・技術)と Dp3.情報収集・分析力(知識・技術)について

全ての項目で、マイナス評価が20%を超えている。昨年比でみると満足の評価が上がっている一方で、やや不満が増えており、二極化していると考えられる。

技術面については「独り立ちが進む一方インシデントの発生も増えている。」「本人が同期と比べの出来なさを受容できていない。」等の記載がある一方で「振り返り次どうするべきかを一緒に考えている。」「素直にアドバイスを聞くので、今後の伸びに期待する。」と経験をサポートしようとしてくれる先輩看護師の想いが多々記載されていた。

知識については、「アセスメント能力が低い」と在校時にも学習習慣があまりつかなかった学生も散見されており、3年次の実習で教員が感じていたことが卒後も変わらないようであるようだが、「わからないことを質問出来ている。」「学ぼうとする姿勢がある」とも記載があるので、特に領域実習、統合実習でのアセスメントを今後も教科書や参考書に戻り、知識を持って看護を展開するよう関わり続ける必要があると考える。

#### Dp4.専門職業人として運用する能力(知識・技術)

所属する部署での規律の遵守・倫理観はプラス評価が80%を超えているが、その他の項目はマイナス評価が20%を超えている。複数から「接遇面をして欲しい」「言葉使いが普段の話し方が出ている」と意見があり、他者を尊重する誠実さ・一般常識・報告連絡相談については、学校生活の中でも、1年次の基礎実習から3年間通して態度面を求めており、この数年は外部講師によるマナー講座も開講していたので、指導の成果が実っていないことを痛感する。マイナス評価でも満足の割合は昨年比で上昇しており、多様性という社会風潮の中でマナーの共通認識が薄れているとも言われおり、卒業生の個の性格によるものも多いと捉えるが、医療の専門職業人としては必要な能力であることから、入学時からの指導をより意識して継続していく。(教員との話し方もTPOが不適切であってもその場で指摘出来ていない場面もあるので、全教員がその場での指摘をすることを常に意識する必要がある。)

#### Dp5.コミュニケーション力(知識・姿勢)

全ての項目で、マイナス評価が20%を超えているが、前年比は全ての項目で上昇している。世代の特徴として広く浅く当たり障りのない関わりをする傾向にあると言われており、在学時から仲が良さそうに見えていても教員が想像するよりあっさりした人付き合いをしており、他者への興味関心が低い学生は散見されたが、看護の対象者の多くは理解力も表現力も低下している可能性もある高齢者であり、目上の人への対応も求められている。実習中から指導はしているが、こちらも実っていない学生が多いこと意識した関わりが今後必要である。

#### Dp6.自己の看護観が持てるについて

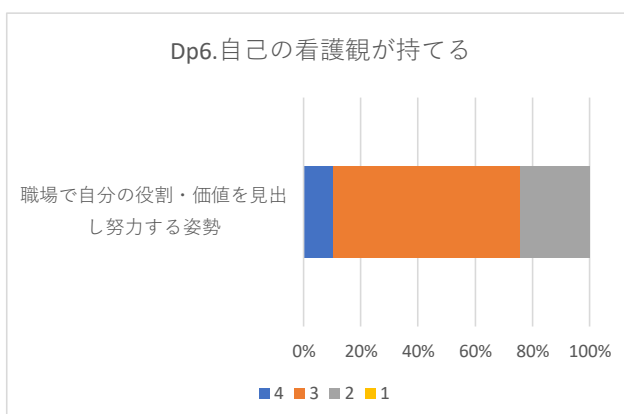
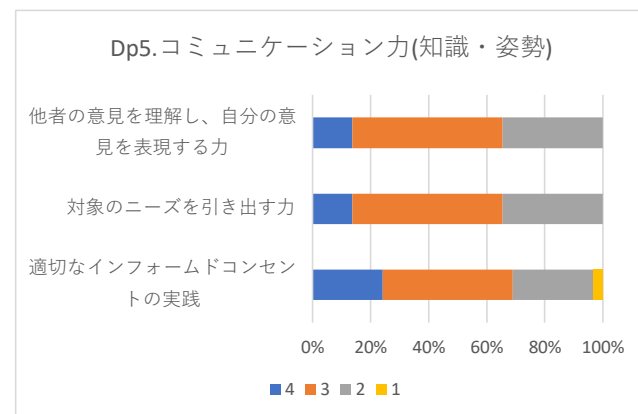
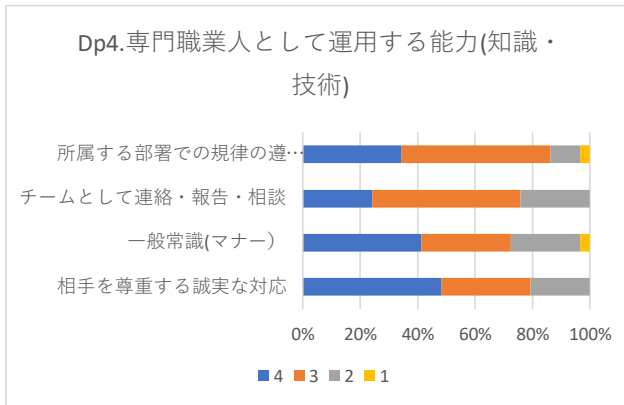
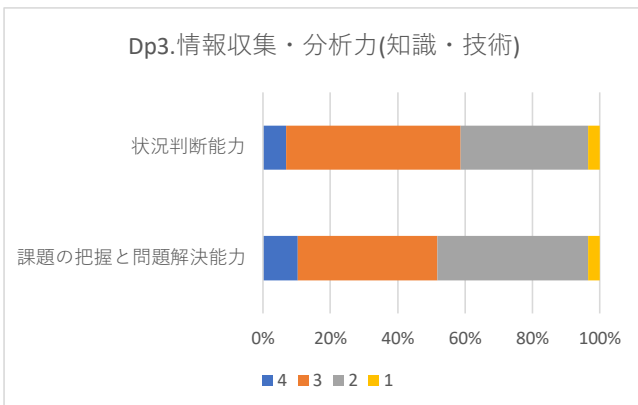
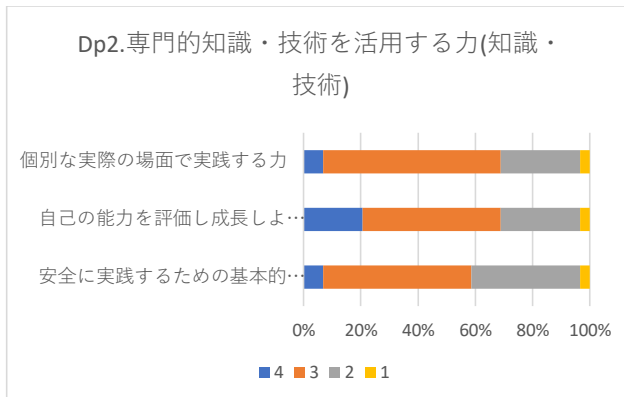
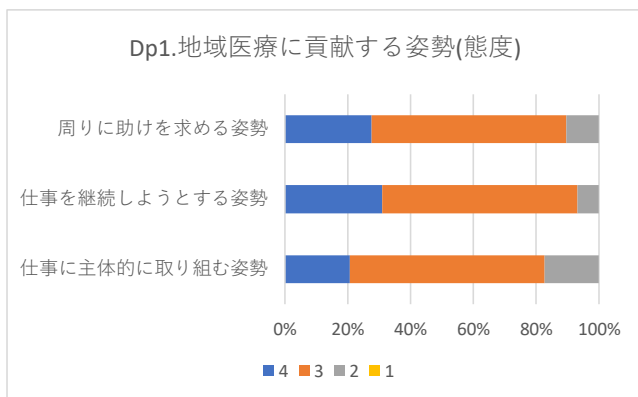
プラス評価が80%を超えなかったが、前年比は上昇している。入学時にはぼんやりとしていた看護観が実習を通して少し具体化し、さらに就職して看護師として勤務して対象と関わることで学生なりに看護観が出来てくると捉える。今後も看護の魅力や成功体験を感じられるよう特に実習を通して経験の場となるようサポートしていく。

#### 【退職者について】

アンケートから就職後半年以内に退職に至った学生が3名いたことが明らかになった。修学資金貸与施設・実習施設であることから、修学資金連絡会議や実習の場で途中経過や結果を耳にすることもあるが、1名の学生は在学中から懸念していた精神面、他の2名は所感としてその理由は就職前からわかっていたことであったり、修学資金連絡を借りる責任について重みがわかっているのかとを感じる面もある。

在学時から就職を決めるという社会的責任についても、就職支援の際に伝え続ける必要があると考える。

以下にアンケート結果を示す。



病院	年代	性別	退職理由と経緯	時期	対象学生の特に不足していること
日赤 1	30代	男性	経済的に副業出来いと苦しい。無断欠勤続き、退職代行を使う。(本人からも最後の電話はあり)	5~6月	DP1 仕事に主体的に取り組む姿勢
					DP2 自己の能力を評価し成長しようとする力
					DP3 職場で自分の役割・価値を見出し努力する姿勢
坂中 1	30代	女性	子供の精神面不安定、家族の協力困難。	不明	DP1 仕事を継続しようとする姿勢
					DP3 課題の把握と問題解決能力
					DP3 状況判断能力
坂中 2	20代	女性	精神的不安定、自己肯定感の低さ、感情失禁、コミュニケーション困難があり、配属病棟を変えたり、専門的機関での受診を進めたが、勤務中の情緒不安定が改善せ配属病棟を変えたり、専門的機関での受診を進めたが、勤務中の情緒不安定が改善せず退職に至る。	5~6月	DP1 仕事に主体的に取り組む姿勢
					DP2 自己の能力を評価し成長しようとする力
					DP6 職場で自分の役割・価値を見出し努力する姿勢